

## 第2回 福山駅前再生協議会

開催日時 : 2017年(平成29年)5月24日(水) 15時00分~17時00分

開催場所 : 福山市役所3階中会議室

出席者 : 委員・アドバイザー : 16人

一般傍聴者 : 21人

### 意見交換での主な意見

#### ○生駒芳子委員

- (1) シンボリックな場所にする
    - ・大きな設計でなにかしらランドマーク的なデザインをして、シンボリックな駅前(場所)になると思う。
  - (2) 市民の居場所にする
    - ・家以外に居場所を求めている人は多いと思う。
  - (3) 緑溢れる「公園」のような場所
    - ・緑の中にアトリエがあり、毎週末ファーマーズマーケットが行われるような場所があればいいと思う。
  - (4) 福山のものづくりを発信
    - ・福山はものづくりのまちだと思う。海外のトップブランドも福山の素材や技術を採用している。それなのに市民には浸透していない。
    - ・福山中の素材が駅前に来れば見ることができる、というビジネスマッチングの場があればと思う。
  - (5) クリエイターの交流の場
    - ・これだけ素晴らしい素材が福山にあるので、企画・プロデュースする人が来て、マッチングできれば、福山発のものがたくさん生まれると思う。
  - (6) 起業・就職の機会を生む
    - ・若者が夢を持てるまちに福山がなればと思う。
    - ・マッチングの場やシェアオフィスがあってもいいと思う。
  - (7) 新視点をもつ観光の拠点にする
    - ・観光にはテーマが必要だと思う。濃い情報を手に入れられるようなものがあると思う。
  - (8) おしゃれなイベントを多発
    - ・若い人や女性などを引き寄せる、おしゃれなイベントを多発させたい。
  - (9) 「知恵の輪」語り部セミナー
    - ・高齢者の方に語り部になってもらい、福山の歴史などについてセミナーを開催してみてもどうか。今の若い人への刺激になると思う。
  - (10) 市民の問題解決コンシェルジュ
    - ・市民の方が抱える課題をICT, IoT, AIなどの力を借りて解決するセミナーやセッションを開催してはどうか。
- ・コンセプトとは別に、福山に関係のある芸術家を紹介したいと思う。
- ・陶芸家の桑田卓郎さん。もう一人は、ファッションデザイナーの串野真也さん。このようなすごい人

たちが福山から出ている。このプロジェクトに絡んでほしいと思っている。

#### ○石川貴志委員

- ・「複業モデル地区」プロジェクトとして、新しいワークスタイル・ライフスタイルを実現する環境を産官学連携で整備し、人材を呼び込むという仕組みを提案したい。
- ・新しい働き方をテーマとした内閣府や企業が主催するイベントなどに登壇することがあるが、大企業も準備をしているなという印象を受けた。
- ・国も働き方改革実現推進室を発足し、副業を解禁する大企業も出てくるなど、社会も変化してきている。
- ・今回提案する複業モデル地区プロジェクトは、全国のモデルとなるものを福山の中でつくっていくというものになる。福山でまちづくりが動き始めているし、社会的な背景や政府が兼業副業を推進していることもあり、追い風が吹いていると思う。
- ・パブリックマインドをもって業を起こす人材（主体的市民）をどう増やしていくのか、これは行政・大学・企業が連携する必要があると思う。
- ・連携の仮案として、市立大学内に地域研究所を設置し、地域研究員として主体的市民を福山に呼び込むというものを考えている。

#### ○渡邊一成委員

- ・市立大学の学生はほとんどが自転車移動であり、そのうちの1～2割が電車と自転車で通学していて毎日福山駅を利用している。
- ・帰宅時は電車の時間に合わせて駅に行くため、駅周辺での滞在時間が短くなっている。駅周辺に魅力があれば、電車の時間まで駅周辺で過ごそうかと考えて、滞在時間が増える可能性が十分にあると思う。
- ・学生は知的好奇心を刺激されると、楽しんで取り組んでいくという一面があると思う。学生が普段、話をする大人は両親と大学教職員、バイトの店長くらいで、非常に狭い範囲でコミュニケーションをとっている。福山のいろんな大人と話す機会があればいいのではと思う。

#### ○前田圭介委員

- ・中心市街地は歩く喜びがあればいいと思う。
- ・福山では植物の葉が落ちる前に枝を切ってしまう。幹だけ太って枝がないという植物が増えてしまう。その植物もいつか倒されて、また新しく植えるということが起こっている。このような現状の中で、美しい風景や美しい心をつくることができるのかと疑問に思う。
- ・今の伏見町も全てを新しく開発することをいいと思っていない。
- ・人が歩く場所をどのような環境にしていくのか。
- ・市民が愛おしいと感じる気持ちがないと何をつくっても続かないと感じる。
- ・他人に植えてもらおうと落ち葉の清掃など他人に任せてしまう。植えたら自分たちで育てるということが大切だと思う。
- ・土木のデザインが大事だと思う。自然に町を歩きたくなることにつながるのではないかと。

### ○ディスカバーリンクせとうち

- ・今の若者は郊外で過ごしている。
- ・そもそも市民は駅前ににぎわいを求めているのか。駅を出ると、地方ならではの静けさがある、というのいいかもしれない。どちらかに振り切ったほうがいい。
- ・ターゲットを市内（市民）か市外かとあるが、市民をターゲットにするべきかと思う。市民の方に愛される駅前になれば市外の方も来たくなると思う。
- ・市民に愛されるということ、本当ににぎわいは必要かということ、思いっきり振り切ること、これが大事だと思う。
- ・商店街はシャッターが下りていることが多い。例えば、商店街に福山市役所の一部を置いたらどうか。会議室を商店街の空いているところを使うというような。会議室が商店街に置かれれば、商店街周辺のにぎわいにつながるかもしれない。
- ・これは友人が言っていたことだが、福山の駅の中は福山のお土産を置いていない。駅の中でも福山を満喫できるといいなと思う。

### ○株式会社広島銀行

- ・大切なのは、市民が福山の良さをどう感じているのかということだと思う。
- ・備後圏にはオンリーワン企業がたくさんある。全国でもこのような地域はないかもしれない。しかし経営者と話をすると、学生が集まらないと言う。地元企業への就職ができれば、若者の定住化につながると思う。
- ・福山は人身事故が多く、その原因は高齢者にとって車がないと生活できない状況にあるかもしれない。この状況を変えていかないといけない。
- ・北側は憩える場を提供し、南側は商業地域、老若男女が買い物できる場所になる。そのなかに行政の施設も必要なのかもしれない。

### ○奥山健二委員

- ・福山で有名なものはばら祭りだと思うが、年1度、1箇所だけである。お城などいろんなところでイベントをやるべきだと思う。
- ・コンペのようなイメージで、いろんな地域ごとのばらの競争をしてはどうか。
- ・ボストンではエメラルドネックレスという市内の公園などをつなげたネットワークをつくっている。福山も例えば、ばらのネックレスという名前で駅前から芦田川、競馬場跡地に向けて小道にばらを植えるなどしてみてもどうか。
- ・高齢の方の中には、ばらを育てることに積極的に取り組んでおられる方もいる。地域の住民が自らやりたいと思えるような取組を、1年のサイクルの中でできればいいと思う。

### ○西日本旅客鉄道株式会社

- ・伯備線の備中高梁駅では、駅のバリアフリー化として、橋上駅舎及び自由通路の設置により東西が分断されていたものを解消した。高梁市は駅自由通路に併設した図書館(TSUTAYA+スターバックス)を開設し、学生のまちなので駅を中心に集えるようにしている。
- ・もう一つは、岡山市内に北長瀬という10年前に開設した新駅がある。駅の目の前に市民病院があり、

駅からペDESTリアンデッキで繋がっている。駅を中心としたまちづくりをしている事例を紹介させてもらった。

#### ○福山商工会議所

- ・生駒委員のプレゼンにあったマテリアルマルシェはいいと思う。
- ・非日常的な空間が出来れば、中心市街地も変わっていくのではと思った。
- ・再生のコンセプトは、「ニューウェーブの人と地元の者との融合」だと思う。
- ・多文化共生、これも福山のまちでは避けられないコンセプトになると思う。

#### ○佐々木伸子委員

- ・話を聞いて思ったのは、ターゲットはまずは市民でいいのではと思う。市外、市内あわせて考えるのではなく、どちらかにウェイトを置かなければならない。
- ・人づくり、人育ては福山では必要な軸になると思う。
- ・人育てと関連するハードの整備が重要になってくる。
- ・協議会での今の議論は、駅前に限らず福山全体に関わるようになってきているようなので、福山駅前の機能に重点を置いた方がよいのではないか。そうすると、高齢者が増える時代に備えて、駅前の交通の問題をハード的にどう解決するか、今回のビジョンに描かないといけないと思う。
- ・今、検討している20年後は、免許返納した高齢者が増え、今とは大きく状況が変わっているだろう。そのときに交通結節点である駅がどうあればいいのか、今回作成するビジョンではみせる必要がある。

#### ○久田数枝委員

- ・緑は確かに素敵だが、どのように管理をしていくのか、難しいと思う。
- ・古くからあるものと新しいものを共存させる必要がある。多様なものをどう管理していくのか。ダイバーシティマネジメントと言えるかもしれないが、多様なものを統一感を持たせながらどう管理していくのか難しいところだと思う。
- ・福山のブランド化がはっきりしないと、いいものはあるが、結局何があるのだろうと分からなくなってしまう。
- ・いろんな人と話すことができる場があるのはとてもいいことだと思う。
- ・福山にもすごい人がいる。その人たちと若い人がコミュニケーションできる場があれば、若い人たちもこのまちの魅力をわかると思う。
- ・何かモノがあるということではない。若者はやっぱりおもしろい人たちが集まっているところに行きたいと思っているようだ。

#### ○前田圭介委員

- ・緑は大事だと思う。
- ・開発などできれいなものをつくることだけが意識されている。きれい一辺倒、安全一辺倒になりがちになってしまう。安全面など自分たちでどうフォローしていくかが大切だと思う。
- ・木は長く生きる。世代を超えて子や孫の世代まで続くものだと思う。こういうものに敬意を払う必要もある。

- ・風景は建築ひとつで作れるものではない。地域全体でつくられる。それをどう維持するか一人で考えていてもだめだと思う。
- ・新しいものを取り入れるときには自分たちで考えることが大切だと思う。それが「らしさ」につながると思う。
- ・銀座の商店街は自分たちで銀座らしさを常に考えている。だから銀座はおもしろいと感じるところだと思うし、福山もそうでありたいと思う。

#### ○渡邊一成委員

- ・行政に頑張ってもらわないといけないことに、歴史を残すことがあると思う。
- ・伏見町には福山城の史跡がたくさんある。歴史的なものを残しながら新しいものを作っていくというのは大事なことだと思う。

#### ○嶋田洋平さん（アドバイザー）

- ・みなさんの意見を聞いていて、ビジョンというゴールについて議論していると思うが、それ実現していくためのプロセスがどうなっているかが大事だと思う。
- ・ある知り合いの方が地元に戻って就職しようと思い、就職サイトで求人を探したが、就職先があまりなく、地元に戻り就職することを諦めたという話を聞いた。就職サイトの提供する情報の中でしか自分の将来を思い描けないと、そういうことになってしまう。
- ・本当は福山にいい会社があっても、そこに対するチャンネルが乏しいとそうになってしまう。
- ・商店街を消費する場と捉えずに、人が働く場と捉えていくことがいいと思う。商店街に人がいるという状態をどうつくるかが大切だと思う。
- ・資料の中に「生きがいを感じる暮らし」、「自分らしく働く」という言葉があるが、生きがいとは何で、「自分らしく」とは誰のことで、「自分らしく働いている」状態とはどういう状態なのか、具体的に話をしていくことが大切だと思う。

#### ○岡崎正信さん（アドバイザー）

- ・この協議会は人様の土地を議論する場であり、地主さんのことを念頭に置いた議論をすることが論点だと思う。
- ・一方で地主さんに分かっていたきたいこともこの場で議論すべきだと思う。それは社会が変わったということだと思う。
- ・負担した者が受益するという社会になったと思う。まずそれを理解していただいて、その先に自分が負担する可能性があるのかということが論点になってくると思う。この場の意見が地主の人の心を動かすかがこの協議会の価値を決めると思う。
- ・市民の共感を得るためには、その地域の歴史とか文脈を大事にしたほうがいいと思う。私のこれまでの経験からすると、福山市の文脈はゴム会社、鉄の町、繊維の町、水野家の歴史だと思う。地主がここに投資したいと思える議論をしないといけない。

#### ○清水義次座長

- ・次回の協議会では、自分なら覚悟を持って駅前での事業をする、というものを提案してもらいたい。

・課題を解決するコンテンツは何なのか考えてもらいたい。そこを視点に次回からは議論をしたい。まちが良くなることが最優先だと思う。地主の方々が乗ってくれる意見を期待します。

以上